

症例

A氏 82歳 男性 身長165cm 体重47Kg

既往：パーキンソン病

1年前から歩行困難、半年前から認知症状が出現。日常生活自立度は全介助でデイサービスを二回／週ほど利用していた。ある日、発熱にて自宅から病院へ救急搬送され、誤嚥性肺炎・尿路感染症の診断で入院となった。

入院時から仙骨部に DESING-R 評価 D3 の褥瘡が確認されていた。自宅では妻がオロナイン軟膏を褥瘡部に塗布して処置されていた。

数週間の抗生剤投与にて病状軽快し、自宅退院となった。

退院後の経過

身長165cm 体重45Kg BMI 16.5

退院後、息子と娘が様子を見に行くこともあるが、入院前と同じように妻と2人暮らしで、80歳の妻が主な介護を担い、寝具は敷布団と枕のみという状況である。

デイサービス二回／週利用。

便・尿失禁にてオムツ使用中。

食事内容は1100Kcal

仙骨部褥瘡 DESING-R 評価

D3

E6,s8,i0,g0,n0,p0 合計14点

処置：1回／日 プロスタディン軟膏＋ガーゼ保護。



(仙骨部の褥瘡)

下記の問いについて、グループワークを行い、その内容を発表してください。

① A氏の日常での問題点を抽出し、望ましいと考えられる方向性について

② 褥瘡をアセスメントし、望ましいと考えられる方向性について

※①②の他に気づいたことがあれば付け加えて発表してください。